試奏：WeROCK試奏班

We ROCK 的 楽器試奏会

ポーランドから上陸!

フロア・タイプのアンプ・ヘッドが登場

どんな環境でも自分の音が出せる最強システム!! ～Taurus:StompHead シリーズ～

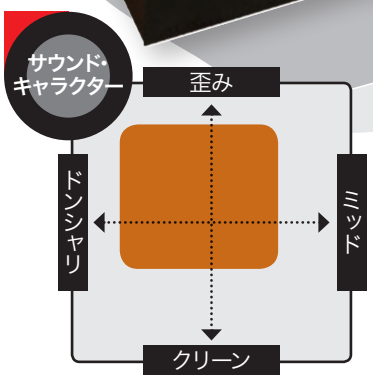
ライヴならまだしも、スタジオでのリハーサルにアンプを持ち込むのは、なかなか苦労するもの。そんなギタリストの悩みを、あっさりと解消してしまう小型で軽量、なのに音もいいというアンプ・ヘッドが登場した。“ホントに使えるの？”と思っている読者のみなさん、いつも、いいことばかり言っている試奏記事ですが、これはけっこう使えます！

StompHead 4 High Gain

¥134,400

シリーズ最新モデルはハイ・ゲイン・タイプ！

⬆接続は、ギター→ストンプヘッド→スピーカー・キャビネット。ストンプヘッドからキャビネットまでは、スピーカー・ケーブルで接続することをお忘れなく！



●出力：70w／50w／40w　●真空管：12AX7×２　●コントロール：〈クリーン・チャンネル〉＝クランチ、ベース、ミドル、トレブル、ヴォリューム　〈リード・チャンネル〉＝ドライヴ、ベース、ミドル、トレブル、ヴォリューム　〈マスター〉＝ブースト、マスター　クランチ・オン／オフ・スイッチ、チャンネル切り替えスイッチ、ブースト・オン／オフ・スイッチ、ミュート・スイッチ　〈リア・パネル〉＝出力切り替えスイッチ、インピーダンス切り替え　●入出力端子：インプット(スタジオ／ステージ切り替えスイッチ付き)、エフェクト・ループ、ライン・アウト、スピーカー・アウト、エクスターナル・コントロール・イン(A、B)　●外形寸法：385(幅)×90(高さ)×190(奥行き)㎜　●重量：3.1kg

ギタリストにとって、とても便利なアイテムが登場してくれた！　ここで紹介するのは、エフェクターではない！　これは、なんと、アンプ(・ヘッド)なのだ。そう、スタック・アンプのスピーカー・キャビネットの上に置かれる、とても重くて、運搬時に腰を悪くした人も多いと思われる“あれ”です。あの、重いアンプ・ヘッドが、WeROCKより、ひとまわりほど大きいぐらいのサイズで軽量、しかも足元に置くタイプとして登場してしまった。それが、このタウラス・ストンプヘッド・シリーズだ。ここから、スピーカー・ケーブル(通常のケーブルは使用不可です！)をスピーカー・キャビネットにつなげるだけで、大音量も出せてしまうというアイテムなのだ。

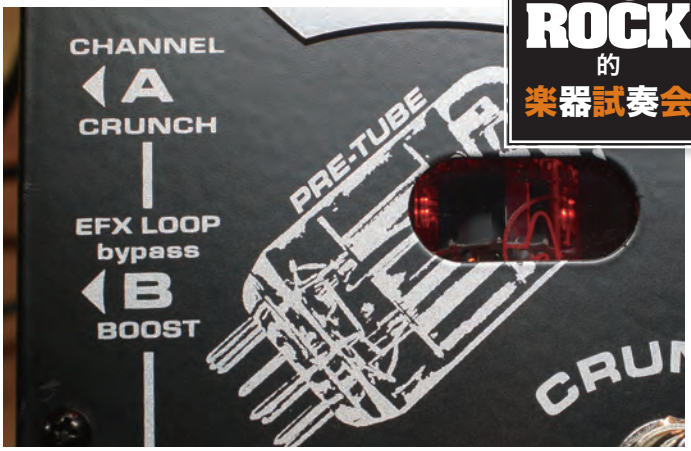
このストンプヘッドがあると何が便利かというと……現在、ほとんどのリハーサル・スタジオやライヴ・ハウスには、だいたいマーシャルのキャビネットが常備されている。しかし、常設されているヘッドの種類はさまざまだし、毎回、自分のヘッドを持っていけるわけではないので、音作りにも苦労してしまう。そんな時、ストンプヘッドがあれば、どんな環境に行っても、自分のセッティングで自分好みのサウンドが、いとも簡単に作り出せてしまうのだ。

さらに、このストンプヘッド、それぞれにチャンネル切り替えや、ブースト・スイッチなどが装備されているモデルもあるので、アンプからフット・スイッチを出す必要もなく、足元で完結してしまう。便利そうだけど、肝心のサウンドがどうなのか!?

さあ、試奏といってみよう！

まずは、ベーシックな**ストンプヘッド 1**を試奏してみた。このルックスを見て、多くのギタリストが思うのが、“ちゃんと、いい音が出るの？”ということだろう。WeROCK試奏班も、そのあたり

⬆ストンプヘッド3以上にはエフェクト・センド／リターンも搭載。さらには、ライン・アウト端子も装備しており、スピーカー・キャビネット・シミュレーター回路を通るので、ストンプヘッドからミキサーへ接続することも可能だ



⬆ストンプヘッド4からは、プリ部とパワー部に真空管を搭載！　さらに、フット・スイッチを接続すれば、ブーストのオン／オフやエフェクト・ループのバイパスも可能

は過度な期待をせずに弾いてみた。

まずは、クリーンから。

お〜！　これは！

この機種で、いきなり、かなり極太なクリーンが出てくれた。ストンプヘッドは、デジタルではなく、すべてアナログ！　この1は、真空管をシミュレートしているというサウンドなのだが、ものすごくウォームで、トランジスタとも真空管とも違う中域を持っている。クランチ・ツマミの幅が広く、9時ぐらいで中域がふくよかなクリーン、12時をすぎてから歪みが強くなり、このチャンネルでも、けっこう歪んでくれる。クランチを強くすればするほど、シャープさが出てくるトーンだ。続いて、リード・チャンネル。かなり、いい歪みです。これ、使えるな〜。お世辞抜きで、このベーシック・モデルで充分に使える歪みを出してくれるのだ。歪みの質的には、やはり極太なタイプで、モダンなサウンドも作り出せる。ゲインも充分なので、バッキング程度なら歪みエフェクター不要で行ける。気になる音量だが、このモデルは、この大きさにして50wの出力がある。音量も充分で、ハッキリ言って驚かされた。しかも、かなり音圧もある！

いや、これ、このまま上位機種に行くのが楽しみになってきたぞ！

さて、続いては、ストンプヘッド 3。今度は、クリーン・チャンネルにはクランチとクリーンの切り替えスイッチ、そしてブースト・スイッチまで搭載。さらに出力は60w、50w、40wを選択可能で、エフェクト・ループも付いているというモデルだ。さて、まずはクリーンから試奏してみた。1に比べると、きらびやかなトーンが印象的なクリーンだ。ピッキングのアタックが出るクリーンで、高域が出てくれるトーンだ。このままクランチをオンにしてみる。軽快なクランチから、フルにすると強めの歪みも出てくれる。ストンプヘッド 1よりもカラっとしたアメリカンなトーン。さて、リード・チャンネル。うぉ〜！　今度は、マーシャルっぽさを持った歪みだ！　さきほどのが、ロー・ミッドに比重を置いたトーンだったのに対し、こちらはJCM2000に近いぐらい歪んでくれて、サウンドがじつに真空管っぽい！　ちょっとゲインを抑え目にして、オーバードライブでもカマして弾きたくなる……そう、完全にアンプを使って弾いている感覚なのだ。さらに、1と同じ50wにして弾いているのだが、パワー感がこちらのほうがあるように感じられた。そして、ブースト・スイッチを使ってみると……。歪みが強くなったり音量がアップするというより、音圧がアップして倍音が出てくれる。これは、ブースト・オンにしたままで弾いても気持ちいい。ストンプヘッド3の段階で、かなり使えるサウンドを出してくれた。いや〜、ここから上位機種に行くのが楽しみ！

⬆ストンプヘッド3から上位モデルには、出力を1/10にしてくれるスイッチを搭載

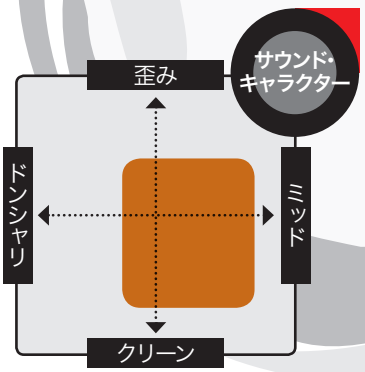
さあ、今度は、最上位機種のうちのひとつ、ストンプヘッド 4 シルヴァー・ラインだ。この機種から、ついに、プリ部に真空管、パワー部は真空管+トランジスタというハイブリッド・タイプになっている。ここまでのモデルでも、真空管をシミュレートしていたので、充分に真空管っぽさを出してくれていたのだが、やはり本物は違う！

音が太い！　ストンプヘッド 1で極太と言っていたが、さすがに本物とは太さの質が違う。太さの種類が違うのだ。元気があるというか、パンチが効いていて、こんな小さなボディから、ふつ

出力50wの もっともシンプルなモデル

StompHead 1 Black Line

¥52,500



●出力：50w　●コントロール：〈クリーン・チャンネル〉＝クランチ、ベース、ミドル、トレブル、ヴォリューム　〈リード・チャンネル〉＝ドライヴ、ベース、ミドル、トレブル、ヴォリューム　チャンネル切り替えスイッチ　●入出力端子：インプット、スピーカー・アウト　●外形寸法：310(幅)×70(高さ)×190(奥行き)㎜　●重量：2kg

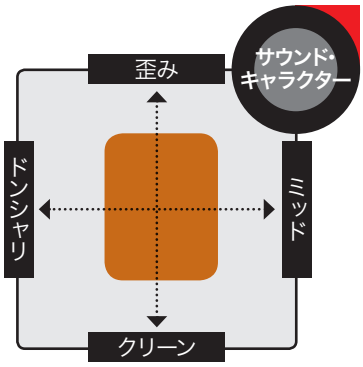
➡ストンプヘッド 4には、ブースト・スイッチの他、ミュート・スイッチも搭載。チューニング時など、完全に音を切りたい時など、じつに便利だ

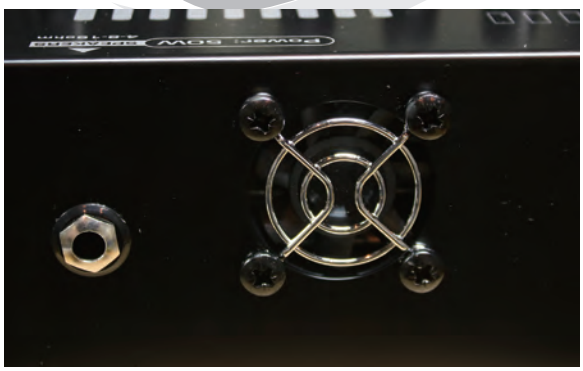
1. BLと同じく真空管シミュレーション回路を搭載

StompHead 3 Black Line

¥68,250

●出力：60w／50w／40w　●コントロール：〈クリーン・チャンネル〉＝クランチ、ベース、ミドル、トレブル、ヴォリューム　〈リード・チャンネル〉＝ドライヴ、ベース、ミドル、トレブル、ヴォリューム　〈マスター〉＝ブースト、マスター　クランチ・オン／オフ・スイッチ、チャンネル切り替えスイッチ、ブースト・オン／オフ・スイッチ　〈リア・パネル〉＝出力切り替え、インピーダンス切り替え　●入出力端子：インプット(スタジオ／ステージ切り替えスイッチ付き)、エフェクト・ループ、ライン・アウト、スピーカー・アウト　●外形寸法：385(幅)×70(高さ)×190(奥行き)㎜　●重量：2.4kg





⬆すべての機種に、内部の熱を逃がしてくれるファンも装備している

⬆マスター部のマスターとブースト・コントロールが搭載しているモデルは、両チャンネル共通で効いてくれる。ブーストは、音圧の調整にも使える

うに真空管アンプの音が出てくれているのだ。さて、どれぐらい歪んでくれるか。先ほどから、マーシャルを引き合いに出して申し訳ないが、このモデルもマーシャルっぽさを感じさせてくれる歪みだ。JCM800～2000ぐらいまでの歪みとトーンが感じられる。1や3と比べると、歪みのツブが荒々しくアグレッシヴなので、ミドルを11時ぐらいに絞ってトレブルを1時、そしてドライヴを3時ぐらいにすると、極上なディストーション・サウンドが作り出せた。さらに、ブースト・スイッチを使うと、低音が腹にズンズンきて、ギタリストにはたまらない音圧を出してくれる。冒頭に書いた“ちゃんと、いい音が出るの？”という心配は、まったく不要。使えます！

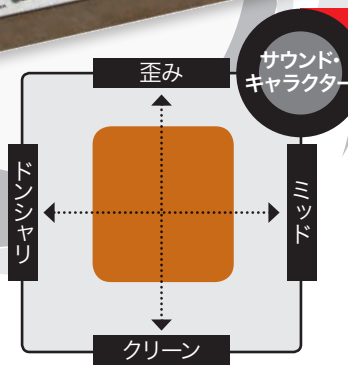
さて、いよいよ、メーカーさんが“WeROCKには、これでしょ！”とオススメしてくれた、ストンプヘッド 4 ハイ・ゲイン。オススメということで、いきなりリード・チャンネルで弾いてみました。ウッヒョ～、素晴らしい！　シルヴァー・ラインよりも歪みのツブが細かくなり、現代的なディストーション・サウンドだ。ハイ・ゲインという名前だが、歪みすぎて取り扱いづらいというサウンドではなく、弾きやすいトーンで、他のモデルよりもサスティンもあり、倍音も音圧も充分に出てくれる。これは、使えるぞ。こういうモデルは、ひとりで弾いているぶんには気持ちいいのだが、バンドで鳴らすと音が前に出てこなかったりしてしまう。ということで、試しにバンドのスタジオ・リハーサルに持ち込んで鳴らしてみたのだが、まったく問題ない、というか充分に使える。音量も充分だし、手前にオーバードライブをつなげて弾くと、もう、ふつうにアンプに接続しているサウンドで弾きこなせます。こんな小さいボディで、マーシャルに負けないトーンと音圧を出してしまうなんて、かなりビックリです！

真空管ならではのダイナミックなトーン

StompHead 4 Silver Line

¥102,900

●出力:70w／50w／40w　●真空管:12AX7×２　●コントロール:〈クリーン・チャンネル〉＝クランチ、ベース、ミドル、トレブル、ヴォリューム　〈リード・チャンネル〉＝ドライヴ、ベース、ミドル、トレブル、ヴォリューム　〈マスター〉＝ブースト、マスター　クランチ・オン／オフ・スイッチ、チャンネル切り替えスイッチ、ブースト・オン／オフ・スイッチ、ミュート・スイッチ　〈リア・パネル〉＝出力切り替え、インピーダンス切り替え　●入出力端子：インプット(スタジオ／ステージ切り替えスイッチ付き)、エフェクト・ループ、ライン・アウト、スピーカー・アウト、エクスターナル・コントロール・イン(A、B)　●外形寸法:385(幅)×90(高さ)×190(奥行き)㎜　●重量：3.1kg



トレイナーから発売中のペダル・サイズのアンプ・ヘッドにも注目！

ギター・ケースのポケットにも入るコンパクトなアンプ・ヘッドのQuarter Horseも紹介しよう！　クリーンとドライヴの2チャンネル仕様で、ドライヴ・チャンネルではまろやかなオーバードライブから過激なファズまで幅広く作り出せる。さらに、リバーブ、クラシカルなトレモロ／ヴィンテージ系のテープ・エコーを内蔵し、そのオン／オフをスイッチで切り替えられるのも便利だ。また、ヘッドフォン・アウトはスピーカー・シミュレートを通したサウンドを出力、ライン・アウトではPAミキサーなどへ出力できる。自宅やスタジオでの練習から録音まで幅広く使える1台だ。

Traynor: Quarter Horse

¥36,750

●出力：25w　●コントロール：〈クリーン・チャンネル〉＝ヴォリューム　〈ドライヴ・チャンネル〉＝ゲイン、トレブル、ヴォリューム　トレモロ／テープ切り替えスイッチ、デプス／リピート、レイト／タイム、リバーブ、マスター・ヴォリューム、リバーブ・オン／オフ・スイッチ、エフェクト・オン・オフ・スイッチ、チャンネル切り替えスイッチ●入出力端子：インプット、ヘッドフォン・アウト(ライン・アウト)、スピーカー・アウト　●外形寸法：180(幅)×50(高さ)×140(奥行き)㎜　●重量：0.5kg

■問い合わせ：日本エレクトロ・ハーモニックス㈱(http://www.electroharmonix.co.jp)